

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援事業所としての方向性を職員全員で話し合い、実態に見合った書式に変更し、指針通りの対応ができる事に期待したい。	事業所内で重度化した時、どこまで対応可能か明確にし指針通りの支援を行う事が出来るよう書式を変更する。	終末期、看取りについて職員はどこまで対応できるのか、話し合い、重度化、看取りについての書式をあたりに作成し、ご家族に内容の説明を行う。	6ヶ月
2	6	○身体拘束をしないケアの実践 職員のさらなる研修等を通じて、身体拘束をしないケアの意義を十分に理解した上で、身体拘束を行わないケアを継続できるような取り組みに期待したい。	身体拘束の理解を深めケアに活かすことができる。	内部、外部の研修に参加し、身体拘束について理解を深めると共に、一人一人がアンケートに自身のケアについて記入することで身体拘束を行っていないか振り返り見直しをすることができる様にして行く	3ヶ月
3	26	○チームで作る介護計画とモニタリング 介護計画と日々の介護記録のつながりがあり、3ヶ月に一度の見直しではなく日々の関りの中で情報が変化した時点で、介護計画の変更ができる書式の工夫、業務の工夫に期待したい。	介護計画に沿った、ケアを提供することができる。	介護支援専門員と連携し、本人の状態に合った、介護計画の作成と、介護計画と日々の支援が合っているのか、判りやすい日常記録用紙の作成を行う。	6ヶ月
4	35	○災害対策 事業所内だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力体制を運営推進会議や自治会等に依頼し、事業所としてできる事を地域に貢献するなど、地域連携が築かれることに期待したい。	災害時における、地域住民、自治会等の協力体制を書面化し誰にでも判る様にする	コロナウィルス終息後 運営推進会議の議題にあげ事業所が地域に還元できる事を模索していく。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。